

私もかぼちやも 只今、追熟中

農家の減少と高齢化に不安の声が寄せられる今、新規就農する若者たちがいます。30・40代、新規就農者が中心となっている、佐久ゆうきの会（長野県佐久市）の皆さんに会いに行きました。



栽培技術も身に付き、日に日に“熟度”が上がっている、就農10年目の石田慎二さん（中央）、就農7年目の宮沢祐貴さん（左）、就農6年目の神津有葉さん（右）。

新規就農者が明日の農業を耕す

“増えている若者農家”

員が有機JAS認定を取得し、トマトやかぼちゃ、いんげん、ズッキーニなど年々、栽培品種を増やしています。

野菜も千��も有機的に育てる

「この黄色い部分は『グラウンドマーカー』と呼ばれていて、栽培中にかぼちゃの実が地面と接していた部分です。実の中の色と同じで、収穫した時は薄いけれど、追熟すればするほど濃くなります。熟度を見極めるバロメーターなんです」。かぼちゃを手にして話すのは、有機栽培で野菜や米を育てる佐久ゆうきの会（長野県佐久市）のメンバーの一人・石田慎二さん、36歳。平均年齢が66・8歳という現代日本の農業において、まざれもない「若者農家」です。

食の安全や食品廃棄、食品表示など、さまざまな課題を抱える食。中でも、その根本を支える農家の減少・高齢化は深刻です。食べ物について気になることはたくさんあるかもしれませんが、そもそも作る人がいなくなる、つまり食べ物そのものがなくなるという可能性もあるので、す。しかし、そこに、小さな光が差し始めています。実は今、農業を始めようとする若者の人数が増えているのです。

北に浅間山、南を八ヶ岳連峰に囲まれ、住宅地とともに畑と水田が広がる長野県佐久市。水が豊富で日照時間が長く、昼夜の温度差も大きい。ため、米や野菜、果物などが多く栽培されています。この地に拠点を置く佐久ゆうきの会は総勢17名。ほとんどが30・40代、新規就農者で、全

雨上がりの白菜畑にいたのは、佐久ゆうきの会の副代表・吉田典生さん、41歳です。以前は国税庁に勤務していましたが、7年前、新規で就農しました。「学生の時、『よし、これやってみるか』くらいの気持ちで、畑でのアルバイトに行ったことがきっかけですね。いろいろなことにチャレンジしたい性格でもあるので、畑での仕事が自分に合っていると思いました」。隣りの畑の奥にある林を指差して吉田さんは、「来年には畑として使えるように今、開墾中です！」。2009年、10人で発足した佐久ゆうきの会は、今年もメンバーが1人増えていきます。「定例会議や品質確認、イベント企画などすべてを自分たちで運営しています。コミュニケーションもよくとれているので支えになり、新規就農者でも続けやすいですね」。

青空が広がったかと思えば、明日やってくる台風で再び雲が出てきて、表情がくるくると変わる空の下、佐久ゆうきの会のかぼちゃ部会長でもある石田さんは、せつせと畑仕事をしていました。「ここは前、水田だった所です。水田を好む雑草や病害虫と畑のそれでは種類が違うので、



江戸時代、徳川幕府の直轄地で水田が開墾されて以来、良質なお米が育つ米どころ・長野県佐久市。



突如の雨にも負けず、力強く育つミニ白菜。



生長度合いや病気がないかなどをていねいに見回ります。



前職は国税庁勤務という異色の経歴を持つ吉田典生さんは、林や20年来の耕作放棄地を開墾するほどエネルギー。



経済環境論を学び、農業に関する出版社での勤務経験がある石田さんの栽培方法は、理論に基づいています。

水田と畑の輪作を行うことで雑草や病害虫がリセットされます。土の上には乾燥した稲が見えます。「一本のつるに1つのかぼちゃがなるように、太陽の光と風がまんべんなく届くように、つるや葉などを間引きます」と話す石田さんと一緒に間引きを行うのは、地元のお姉さんたち。石田さんは学生時代、経済環境論を学び、その後、農業に関する出版社

農業から学べること

に勤務していました。「いい栽培方法や情報があれば、メンバー同士でシェアし合っています」。風土を生かしながら有機栽培を行い、メンバー皆で知恵を出し合って生産から販売まで真っ直ぐに取り組

み続ける佐久ゆうきの会。就農する際には大きな壁もありました。「1つは、土地探しです。あの白菜畑は20年来の耕作放棄地で、それまで何人も人が交渉しても難しかったのですが、地元の方々の協力のおかげで使わせていただけることになりました」とは吉田さん。「もう一つは、資金調達ですね。機械や施設には何

もありですが、例えば、かぼちゃの貯蔵庫は皆で使うことで負担を軽減しています」と石田さんも話します。メンバー同士や地元の方々と一歩ずつ、今日も前に進み続けています。「農業を始めた頃は、主に栽培すること自体が楽しかったです。でも、ある日、畑をきれいに手入れしていたら、散歩している地元の方々に「いつもありがとね」と言われて、

とても嬉しかったんです。人とのつながりや地域という風景もつくっていると実感しました」（吉田さん）。「今の時代、効率性が優先されがちですが、そうではない経済を実践したいと思っています。それは、農業でできると思っています。人はずっと学ぶことがあります」（石田さん）。野菜だけでなく価値観や生き方も、確実に育ち、熟しています。



- 1 稲の次にかぼちゃを植えると、雑草や病害虫がリセットされます。
- 2 「グラウンドマーク」の黄色が濃いほど、熟している印。
- 3 「石田さんは仕事がかっちりしてる」と地元のお姉さんたち。
- 4 つるの向きをきちんと整えると、育ってもこの通り。

- 5 かぼちゃのシーズン到来。収穫、貯蔵、出荷と大忙し。
- 6 かぼちゃの隣りでは、ミニトマトチームも出荷作業中。
- 7 「スープやケーキにしてもおいしいけど、やっぱり煮物かな」。
- 8 かぼちゃは収穫後、貯蔵庫に置いて追熟させます。



C O L U M N

49歳以下の新規就農者数が増加

農業就業人口数は2015年209.7万人で、5年前の2011年260.6万人より50.9万人減り、2015年以降も減少の一途を辿っています。農業就業人口数における65歳以上の割合は2015年63.5%で、5年前の2011年61.6%より上がり、2015年以降も上がり続けています。顕著な人口の減少と高齢化を表しています。一方、新規就農者数における49歳以下の割合は2015年35.4%で、5年前の2011年32.9%より増え、2015年以降も増え続けています。新規就農者数は上下しつつも大きな変化はありませんが、その中の「若者」の割合は高くなってきているのが事実。「若者農家」を応援しましょう。

ほくほくとした食感と甘みを満喫
佐久のほっこりかぼちゃ

1087 蔵

カット(1/4コ以上) 498円(税込538円)

※サイズは400g~800g、価格は269円~538円(税込)の間でお届けします。サイズのご指定はできません。

※同時配布のカatalog『ツチオーネ』142号も合わせてご覧ください。





右/『NEWS 大地を守る』
2017年12月号で紹介した、
カネサ鯉節商店。
左/手で熱をはかり火を調整する、
田子節の焼し方「手火山式」。

イベント

編集後記 ↓ 農業人口の減少・高齢化が進む中、その不安を吹き飛ばすかのように、佐久ゆっきの会の皆さんはエネルギーにあふれていました。栽培や販売、地域、目指すものなど、日々感じて考えて、確実に実力を積み重ねています。野菜からエネルギーをたっぷりいただきましたよ！(編集部・大塚)

「行ってみたい」という声にお応えし、産地を訪問！ カネサ鯉節商店に鯉節作りを見に行こう！ 2018.11.24(土) 13:00~15:00

土佐節、薩摩節と並ぶ伊豆節の源流、西伊豆田子地区に伝わる「田子節」の製法を守り製造を続けるカネサ鯉節商店(静岡県西伊豆町)を訪問。生の鯉をカットし、燻し、乾燥させる一連の行程を見学、体験し、ご当地グルメ「西伊豆しおかつおうどん」も試食します。日本の伝統食「鯉節」の世界を堪能しましょう。

DATA
会場……カネサ鯉節商店(静岡県西伊豆町)
※現地集合・解散です。
駐車場……あり(無料)
講師……カネサ鯉節商店・芹沢安久さん
参加費……3,000円 ※削り節のお土産付き
定員……30名
申込……10月21日(日)まで
主催……大地を守る会 おさかな倶楽部

現地へのアクセス
車の場合 ●
東名高速
「沼津IC」より110分
電車・バスの場合 ●
伊豆箱根鉄道
「三島駅」～
「修善寺駅」(40分)、
バス「修善寺駅」～
「中谷」(70分)

「ベジタ」と鶏肉を使って作る！ライブ感あふれる料理教室 井上さんのベジタ使い切り講座 2018.11.23(金・祝) 10:30~15:30

料理家・井上穹子さんが野菜セット「ベジタ」をその場で見てからメニューを決め、ご指導いただきながら4~5人のグループに分かれてそれぞれの料理を作ります。今回のお題は鶏肉。どんな料理になるか楽しみです。鶏肉の生産者も来場し、鶏肉の詳しいお話も聞けます。



その時にある季節の野菜を
しっかり活かします。

DATA
会場……江東区男女共同参画推進センター
(パルシティ江東)
※都営新宿線・東京メトロ半蔵門線
「住吉駅」より徒歩12分、
都バス「扇橋3丁目」下車徒歩3分
講師……料理家・井上穹子さん
ゲスト……まほろばライブファーム
参加費……大人(中学生以上)2,500円、
小学生1,000円、未就学児500円
定員……22名
申込……11月2日(金)まで
主催……大地を守る会
割烹着の会



生産のことから普段、考えていることまで 生産者とおしゃべり会 ~やさか共同農場編~ 2018.11.4(日)13:30~16:00

「やさかみそ」でおなじみのやさか共同農場(島根県浜田市)。大地を守る会との約30年となるお付き合い、種子法廃止、話題の発酵食・糀、CSR生産者運営委員の活動などについて、佐藤大輔さんの熱い思いを聞き、語り合しましょう。甘酒・味噌などの試食もあります。

DATA
会場……川崎市中原市民館 第1会議室(神奈川県川崎市)
※東急東横線・目黒線、JR南武線・
横須賀線「武蔵小杉駅」より徒歩3分
講師……やさか共同農場 佐藤大輔さん
参加費……300円
定員……30名
申込……10月19日(金)まで
主催……大地を守る会 港北大地サークル



さまざまなイベントにも
積極的に参加する佐藤さん。

竹を使ったトング作りを学ぼう 長野修平さんのネイチャークラフト&料理教室 2018.10.27(土) 10:00~16:00

ネイチャークラフト作家で、アウトドア料理の達人でもある長野修平さんが講師の毎秋恒例イベント。今回は、鍋にやさしく熱には強く、さらに長持ちもする竹のトングを作ります。お昼ごはんはたき火料理。ダッジオーブンや鉄鍋が、野菜や肉のうまみをぐんと引き出します。



豪快なアウトドア料理作りも
人気です。

DATA
会場……長野修平さんの手作りアトリエ
(神奈川県相模原市)
※JR・京王相模原線「橋本駅」より
バス30分、「青山」下車徒歩10分
講師……ネイチャークラフト作家・長野修平さん
参加費……2,500円
定員……20名
申込……10月12日(金)まで
主催……大地を守る会
森と木の住まいづくりフォーラム



よみがえれ! ブナの森 第26回秋田・ブナを植える集い 2018.11.3(土・祝) 9:30~16:00

これまで2,500人以上の参加者が約2万本のブナを植樹。米どころ秋田県大湯村の田んぼの水源でもある五城目町馬場目川上流部には、初期に植えたブナが立派に生長し、広葉樹の森が広がっています。植栽を行い、コンサートやバーベキューなど交流会も実施します。



秋風が心地よい山で、
子どもから大人まで皆で植栽。

DATA
訪問先……五城目町恋地国設スキー場跡地
(秋田県南秋田郡五城目町)
※現地集合・解散です。
駐車場……あり(無料)
参加費……無料
定員……20名
申込……10月19日(金)まで
※大地を守る会にお申込みください。
主催……馬場目川上流部にブナを植える会
お問合せ……大地を守る会
(ソーシャルコミュニケーション部)
※五城目町役場、またはJR「八郎瀧駅」から合流も可能です。
ご相談ください。
※11月2日(金)から生産者の宿泊施設に前泊も可能です。
11月2日(金)18時頃より懇親会を実施予定です。
当日はバスで植栽地へ移動します。ご相談ください。

お申込みはWEB
または右記申込書を
注文書と一緒に
ご提出ください

大地を守る会 イベント 検索



お問合せ

オイシックス・ラ・大地
ソーシャルコミュニケーション部
TEL 050-5306-8513
E-mail csr@member.daichi.or.jp

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報をお申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行業者に業務委託する場合があります。この場合、個人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuha.daichi-m.co.jp/information/8>

2018年10月号 イベント参加申込書

ソーシャルコミュニケーション部行

イベント名				参加人数	会員番号			
				人				
参加者の氏名	性別	学年・年齢	アレルギーの有無	参加者の氏名	性別	学年・年齢	アレルギーの有無	
メールアドレス(事前連絡が可能で添付ファイルが受信可能なもの)				携帯電話番号(当日連絡が可能なもの)				

*ご家族の場合、代表者の分のみをご記入ください。

備考(会員として登録された「住所」と異なる方がいらっしゃる場合はその方の住所、他連絡事項がある場合はその旨をご記入ください。)

*複数のイベントにお申込みされる場合や記入しきれない場合は、「連絡先」などに必要事項を明記の上、ご提出ください。